

令和8年
1月発行

水産にいがた

発行所
新潟市中央区万代島2番1号
新潟県漁業協同組合連合会
発行人 寺尾和弥
www.van-rai.net/nigyoren/
※会員の購読料は指導事業
経費より支払いされています。



新潟県知事への農林漁業振興に係る政策要望

主たる目次

年頭のご挨拶	2
令和8年度県水産予算に対する要望事項	5
クロマグロ資源管理にかかる要望活動について	6
新潟県小型いか釣漁業協議会	7
祝 漁業系統功労者表彰式	7
系統団体掲示板（漁協監事研修会他）	8
～担い手対策について～	13
日本海の海水温の変化と水産資源の動向について	14
水揚情報／地区別魚種ランキング 6月～11月	16
漁船海難遭児育英資金の募金のお願い	17
新潟海上保安部よりお知らせ	18
税関から漁業関係者の皆様へのお願い	19

年頭のご挨拶

新潟県漁業協同組合連合会
代表理事長

寺尾和弥



からお祈り申し上げます。

また、漁業関係を振り返りますと、黒潮大蛇行の終息によりスルメイカ等の資源は増加したもの

クロマグロ資源同様、国の大変厳しいTAC管理により、これらを

主要漁獲する漁業者の経営を脅かす状況となっていることに加え、

地球温暖化の影響による海洋熱波の発生等の要因により、秋サケ、

JF 総領

—わたしたちJFの目指すもの—

- 一、海の恵みを享受するすべての人々とともに、海を守り育み、次代へ引き継ごう。
- 一、食料供給の担い手として、安全・安心・新鮮な水産物を提供しよう。
- 一、都市・農山村の人々と交流を深め、活気ある漁村をつくろう。
- 一、JFの利用・参加によって、協同の成果を高めよう。
- 一、自主・自立、民主的運営を基本に、JFを健全に経営しよう。
- 一、協同の理念を学び、実践を通じて共に生きがいを追求しよう。

新年あけましておめでとうございます。

令和八年を迎える、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会の事業推進に際し、格別なるご理解とご協力を賜り、ここに厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナへの本格的軍事侵攻から三年が経過するも今だ終わりが見えない中での中東情勢の悪化等、世界の地政学的リスク等により、円安は進み、輸入原料の高騰に拍車がかかり、エネルギー資源や食料品などの物価上昇が收まらない状況となりました。

世界経済の一刻も早い安定を心

ます。

また、漁業関係を振り返りますと、黒潮大蛇行の終息によりスルメイカ等の資源は増加したもの

クロマグロ資源同様、国の大変厳しいTAC管理により、これらを

主要漁獲する漁業者の経営を脅かす状況となっていることに加え、

地球温暖化の影響による海洋熱波の発生等の要因により、秋サケ、

寒ブリ等の主要魚種を中心とした水産資源の記録的な不漁により、漁家・漁協の経営は今まで以上に厳しさの増した年となりました。

このような中、水産基本計画の基、「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施」、「増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現」、「地域を支える漁村の活性化の推進」を軸に社会・経済の変化など水産業をめぐる状況を考慮し、持続性のある水産業の成長産業化と漁村の活性化

の実現に向けた施策が展開されて

おります。

また、二〇二五年度を初年度とするJFグループの次期運動方針が一昨年十二月に開催された「JF全国代表者集会」にて最終決定されたことを受け、本県においてもこれらを基に新アクションプラン策定を進め、会員の皆様にご承認いただき、様々な取組を実践しているところであります。

以上のことから、本会といたしましても、浜からのご意見・ご要望を踏まえ、その実践者である漁業者が本当に理解していただけるよう努め、浜の明るい将来を切り拓くものとなるよう推進してまいりました、様々な補助事業の予算確保を要望するとともに、漁業者が安心して漁業生産できるよう、役職員一丸となり、全力でサポートして参る所存でございますので、会員の皆様におかれましては引き続き格別なるご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

JF 総領

—わたしたちJFの目指すもの—

- 一、海の恵みを享受するすべての人々とともに、海を守り育み、次代へ引き継ごう。
- 一、食料供給の担い手として、安全・安心・新鮮な水産物を提供しよう。
- 一、都市・農山村の人々と交流を深め、活気ある漁村をつくろう。
- 一、JFの利用・参加によって、協同の成果を高めよう。
- 一、自主・自立、民主的運営を基本に、JFを健全に経営しよう。
- 一、協同の理念を学び、実践を通じて共に生きがいを追求しよう。

年頭のご挨拶

新潟県農林水産部水産課
課長

本間智晴



もかわらず、全国的に来遊数の減少が続いており、未だ直接的な原因が分かりません。本県の昨年の来遊数も、平成元年以降で最少となり、海での漁獲尾数は前年比約二割（昨年十一月末現在）まで落ち込みました。この影響によ

新年明けましておめでとうござります。皆様には、常日頃より県の水産施策に対して多大なる御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年は七月中旬の梅雨明け以降、県内各地で高温・少雨が続いた、ダムの渇水や農作物への被害が発生いたしました。こうした陸上での異変は目に付きやすい一方、海洋環境の変化は兆しに気付いていく、有効な対策を講じることが困難であるという側面を持っています。例えば、長い歴史を持つサケの増殖事業では、関係道県がふ化放流事業を推進しているに

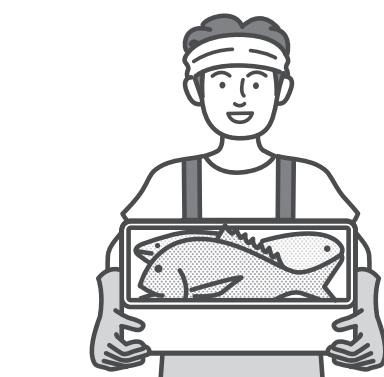
り、県内漁協での塩引き鮭即売会が中止されただけなく、卵の確保が困難となり、内水面漁協等が行う放流事業にも支障が出始めています。また、サケ以外でも海水温の上昇等により、例年通りの漁場が形成されず、旬の魚が水揚げされないという声も多く伺っております。

このように漁獲量が減少する一方で、燃油や資材価格は国際情勢を背景に高止まりを続けており、漁業経営は依然として厳しい状況にあると認識しております。こう

従来の枠組みにとらわれない、新しい漁業・漁村の姿を構築していくかなければなりません。国においても、漁村の地域資源を最大限に活用する「海業（うみぎょう）」を推進しており、所得向上と雇用創出に向けた取組が各地で進められております。

本県では、県内各地で「舫い（もやい）プロジェクト」が始動しており、販路開拓や地産地消の推進、未利用資源の活用など、多様な取組が展開されています。このうち海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する取組は、まさに国が進める「海業」に通ずるものであり、地域の魅力を引き出す先進的なモデルとして定着し、漁村に新たな賑わいをもたらすよう、県としても後押ししてまいります。

この最後になりますが、皆様の本年のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



づき、一昨年に発表した「美宝（びほう）」を筆頭に、本県が誇る水産物を戦略的に情報発信し、国内外を見据えた需要拡大に努めてまいります。

年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事長

坂本雅信



この「海洋環境の激変」という難題に的確に対応し、水産資源の持続的な利用を実現していくため、JFグループでは、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンとした五カ年の運動方針を策定し、昨年四月からスタートさせたところであります。

年頭にあたり、全国の皆さんに謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

近年、国内外における社会・経済情勢は混迷を深めており、漁業を取り巻く状況についても前浜の魚種の変化や漁獲量の大幅な変動、魚介類の育成に必要な藻場・干潟の減少などが顕著になつております。また、昨年は陸奥湾におけるホタテガイや瀬戸内海におけるカキの大量斃死など、全国各地で「海洋環境の激変」が原因とみられる被害が多発した一年であります。

あけましておめでとうございま

私は、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しております。今まで以上にがまさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。そこで、JFグループでは運動方針の下、漁業者およびJFの経営基盤の強化を図るとともに、自らが取り組む事業や経営に関する改革を進めて参ります。さらに、海洋環境の激変や物価上昇による漁業用の燃料・資材・餌飼料価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制などの課題克服に向けて、組織

の総力をあげて取り組んで参ります。

また、地域ごとの実態やニーズを踏まえて水産業・漁業を振興させることを目指して、「浜の活力実践や異業種企業、農林業・商工業者との連携を図るとともに、将来を見据えた資源と環境を同時に回復させるための「環境回復型漁業」にも力を入れて参ります。併せて、プライドフィッシュユープロジェクトなどを通じて、日本産水産物の消費拡大の一翼を担つていただく所存です。

JFグループ関係者の皆さんにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申しあげます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

ギヨレンオイル
大漁
シリーズ



令和八年度

県水産予算に 対する要望事項

新潟県水産系統団体

県内の多くの漁業地域において、漁業者や漁協等による経営改善の取組が行われているが、高齢化による就業者数の減少や担い手不足、国際情勢に伴う燃油等の価格高騰に加え、ALPS処理水放出による隣国等への禁輸など、漁業者や漁協を取り巻く情勢は依然として厳しい状況にあります。

われわれ系統団体としても、漁業所得の向上や地域の活性化を目指す「浜の活力再生プラン」、「浜の活力再生広域プラン」、「新潟県水産振興戦略」及び「新潟県内水面水産振興計画」に位置付けられた各地での取組を支援し、総力を挙げて漁業者とともに地域漁業の発展に努力してまいりたいと考えておりますが、県におかれましても、以下の施策についての推進をお願いします。

- 1 水産物の付加価値向上対策の推進について

県産水産物の付加価値を高め、漁業者の収益性を向上させるため、生産、流通、加工、小売、飲食、観光等の異業種事業者間の連携を深めて行う、新潟県水産振興戦略の取組に対しても支援を講じてください。
- 2 漁業担い手の確保育成について

併せて、トップブランドのPRによる県産水産物全体のイメージアップに取り組む他、漁獲物の付加価値向上や低未利用で価格が低い魚介類の新しい加工品の開発などを魚価の向上を図る事業を推進してください。
- 3 漁協の組織及び経営基盤の強化について

漁協が今後とも漁業者の生産活動を支え、販売事業の強化などにより、漁業経営の改善や地域の活性化等に貢献できるよう、漁協の経営及び市場機能をはじめとした組織基盤の強化のための支援を講じてください。
- 4 水産資源の持続的利用の推進について

水産資源の持続的利用と生産の拡大を図るため、沿岸環境の保全や藻場の回復に努めるとともに、最新の科学的知見を踏まえた資源評価に基づく資源管理を推進してください。また、気候変動に伴う来遊魚種の変化やそれに伴う新たな対応に関する調査・研究及び情報提供を推進してください。
- 5 水産基盤整備の推進について

漁船の取得や設備投資を行う際に利用することが多い漁業近代化資金について、引き続き、予算枠を十分に確保してください。

- ① 沿岸漁場整備の推進について

豊かな沿岸域環境を創出し漁業生産の安定と漁場環境の保全を図るため、藻場の造成や魚礁の設置など沿岸漁場の整備開発を積極的に推進してください。
- ② 力強い産地づくりのための漁港の整備促進について

省力化・軽労化など就労環境が改善し、生産性向上が図られるよう漁港整備に関する予算を確保するとともに、既存の漁港施設の長寿命化にも、引き続き取り組んでください。
- ③ 漁港の防災対策について

これまで行ってきた冬季風浪や高潮への対策に加え、東日本大震災を踏まえた地震・津波対策など、防災力向上のための施設整備を推進してください。
- ④ 漁港海岸の整備について

近海で低気圧が異常に発達する機会が増えていることから、漁港周辺の更なる安全確保を図るため、漁港海岸の保全施設整備を推進してください。

併せて、次世代を担う漁業者が

6 内水面漁業の活性化と生態系の保全について

① 内水面資源の維持増大について

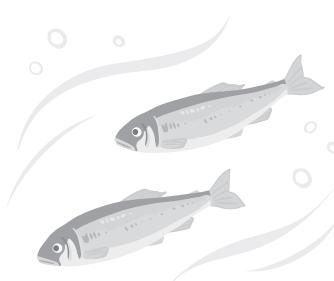
アユをはじめとする内水面資源の維持増大を図るため、漁場環境に見合った増殖技術の開発・普及など、さらなる支援体制の整備に努めてください。

また、アユやサケ・マス等の資源を確保するため放流事業に対する支援を継続してください。

さらに、カワウによる魚類の捕食被害防除対策、オオクチバス等外来魚の駆除への支援を強化して生態系の保全対策を講じてください。

② 内水面養殖振興について

安定供給、品質向上のための取組を継続してください。



クロマグロ資源管理にかかる要望活動について

要望活動について

二〇二五年十二月八日に水産庁長官室において、藤田長官に対し、京都、福井、石川、富山、新潟の五府県及び全漁連と日本定置漁業協会の代表者により、「太平洋クロマグロの資源管理にかかる要望」を行いました。

太平洋クロマグロについては、中西部太平洋まぐろ類委員会（WPFC）の合意に基づき、平成

二十七年から厳格な漁獲量管理が行われており、本県においても多くの漁業者の協力により、これら厳格な措置を着実に遵守してきた結果、クロマグロの資源状況は大きく改善しており、一時は絶滅が危惧された太平洋クロマグロの資源は安全水準にまで急速に回復し以降も順調に増加が続いております。一方ではクロマグロの生存放流、スルメイカなどクロマグロの捕食対象となる水産資源の減少は

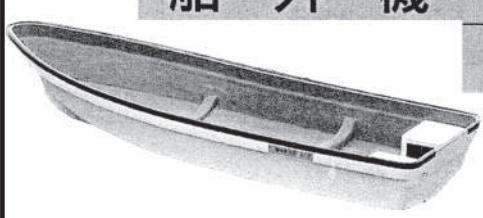




TOHATSU

船外機 4ストローク

トーハツ和船



(株)マリン商事

〒951-8011タネムラマリーナ

新潟市中央区入船町4-3776-22

TEL 025-228-2745

◇新潟県小型いか釣漁業協議会

水産庁長官要望
～スルメイカ採捕停止に伴う
操業機会の確保について～

令和七年十一月二十六日に水産庁長官へ日本海側の小型いか釣り漁業協議会である山形県小型いか釣漁業協議会、石川県小型いかつり協会、富山県小型漁船いかつり漁業者協議会、福井県いか釣漁業協議会、鳥取県小型いかつり漁業協議会、長崎県いか釣漁業協議会、佐賀県いか釣漁業協議会、新潟県連盟で以下のとおり要望活動を行いました。

TAC枠を超過する事態となつたことを反省し、現在、漁獲報告の迅速化体制の構築に向けて、早急な検討を始めたところです。

しかしながら、日本海側の多くの県域がこれから冬いかの漁期を迎える中、数か月に及ぶ採捕停止命令により漁家経営維持の努力をする機会さえ与えられず、淘汰されることはあるてはならないことです。

つきましては、日本海小型いか釣り漁業者の最低限の漁業活動を維持し、いか釣り漁業の灯を将来に残すた

【日本海小型いか釣り漁業の操業機会の確保に係る要望】

我々小型いか釣り漁業者は持続可能な小型いか釣り漁業を目指し、資源管理と操業秩序維持に努めるとともに、国民に対する安心・安全で美味しいスルメイカを食卓に提供するため、日々操業に謹んでおります。

こうした中、小型いか釣り漁業を強く要望します。



※水産庁長官に要望書を渡す様子

のTAC枠を超過したことから十
月より採捕停止命令が発出され
ておりますが、我々の最大の要因
は漁獲報告をタイムリーに把握す
ることができなかつたことと捉え、

受賞おめでとうございます

祝
2025年度
漁協系統功労者表彰式

令和七年十一月十九日に全国漁業協同組合連合会の主催により『2025漁協系統功労者表彰式』が東京如水会館で開催されました。

農林水産副大臣より祝辞が述べられ、水産庁長官及び各種団体の来賓が出席するなか執り行われました。

これからも佐渡の水産業発展のためご活躍を期待しております。



※表彰前の壇上の様子



※表彰式終了後の様子

第四十回漁協運動功労者は全国で三十二名が受章し、新潟県では佐渡漁業協同組合・専務理事の内田鉄治氏が受章されました。

内田氏は四十二年間、新潟県水産課で指導普及員及び団体係等で佐渡漁業協同組合の常勤役員として現職で約二十年に亘りご活躍されており、長年に渡り水産業に貢献したことを讃えられ褒章が贈られました。

系統団体掲示板

令和7年度

新潟県漁協監事研修会

去る、九月二日に新潟県水産会館において令和7年度新潟県漁協監事研修会を漁協監事及び職員、水産系統団体含め計二十九名の参加のもと開催されました。

最初の講演は『漁協監査に求められること』と題し、県水産課農林水産部水産課団体・企画係の大西副参事より講演がありました。冒頭、監事とはどういった存在であるのか、基本的な内容について丁寧に説明があり、実務上においては、大きく六項目にわかれた「漁協監査チェックシート」を用いて忘却することのないよう確認し実務に活かして欲しいと説明がありました。

また、県の常例検査において指摘事項の多い項目について説明があり、アンテナを張つて対応するよう説明がありました。

続いて、「漁協の職責と役割」、「JFグループの運動方針とJF経

営基盤強化の取組」と題して全国漁業協同組合連合会の常任監事である杉田様より講演がありました。

講演の中で「監事は役員の一員。漁協のおかれている現状と課題を適格に把握し、対応方針を理事とともに考え、それを経営に活動する役割を担つていくことが重要」と説明があり、そのためには

JFグループ運動方針二〇二五

二〇二九年の三つの柱である「漁業者を支える事業・経営改革の実行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割發揮による漁村・漁業への貢献」を実行していくことで、JF経営基盤強化が図られると講演がありました。

最初に新潟海上保安部交通課後藤係長、安全対策係の繩手様より「漁船の海難発生状況について」と題し、隣県や県内の漁船海難の発生件数、事故の種別や要因について説明があり、漁船事故が発生しないための注意事項について講演がありました。

続いて、東京税関新潟税関支署の山崎上席監視官より税関業務概況及び摘発事例について講演がありました。



※漁協監事研修会の様子

令和7年度
新潟県漁協役員研修会

会が十月七日に新潟県水産会館において、漁協役員及び系統団体役員約六十名が出席し、JFグループ役員の資質向上と漁協組織の健全な運営を図ることを目的として開催されました。

最初に新潟海上保安部交通課後藤係長、安全対策係の繩手様より「漁船の海難発生状況について」と題し、隣県や県内の漁船海難の発生件数、事故の種別や要因について説明があり、漁船事故が発生しないための注意事項について講演がありました。

続いて、東京税関新潟税関支署の山崎上席監視官より税関業務概況及び摘発事例について講演がありました。

三つ目の講演として、農林中央金庫富山支店JFマリンバンク北陸営業の山下部長より、「JF役員のコンプライアンスについて」と題して、講演があり、近年は益々コンプライアンスという言

葉が企業運営において重要な位置づけとなつており、サステイナブルな組織運営をしていくためにはコンプライアンスの遵守および態勢の構築が必須であるため、改めてコンプライアンスを意識していただきたいと講演がありました。

最後の講演として、公益財団法人海洋生物環境研究所の加悦特任参与より「今改めて漁協って？漁協はなぜ必要？役職員の役割を再確認」と題し、現状の漁協の問題点を具体的に上げ、何をすればいいのか、こうしたらどうか？漁協役員が漁協の経営の責任者として考えまた、職員も自らのこととして役員と一緒に意欲をもつて漁協や漁業、地域を考えしていくことが重要であると講演がありました。

参加した漁協役員においては、今回の研修を有意義に活用して頂くとともに、漁協の役員としての活躍を祈念しております。

令和7年度
佐渡地区漁協長及び
職員交流大会

令和七年十一月二十二日に国際佐渡観光ホテル「八幡館」で佐渡地区漁協連絡協議会の主催により『令和7年度佐渡地区漁協長及び役職員交流大会』が開催されました。

佐渡地区漁協連絡協議会の高野会長の挨拶後、講演に移りました。最初に『新潟魚食普及の会』

の森川あゆ子氏から今年の三月に東京で開催された『全国青年・女性漁業者交流大会』でJF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞された「佐渡における魚食普及活動」の発表が行なわれ、長年にわたる佐渡産の魚を活用した魚さばき体験や料理教室の開催を通じた体験談に会場の皆さんには聞き入っていました。

次に、『産地市場の一般衛生管理』と題し（一社）海洋水産システム協会の高岡副部長代理より講演があり、佐渡水産物卸売市場を視察して魚市場における衛生管理についてのアドバイスを交えての講演を頂きました。

閉会後、懇親会では佐渡島内の漁協長及び役職員・各関係団体、総勢四十六名が一同に会し、普段では交流の少ない他地区の様々な立場の人との情報交換を通じ、意識の向上並びに相互間の親睦を深めた交流大会となりました。



※魚食普及の会を代表しての発表者
森川あゆ子氏



JF新潟漁連
新潟県漁業協同組合連合会



「第六十八回新潟県

青壯年・女性漁業者

交流大会」を開催

十月二十八日、新潟県自治会館において「第六十八回新潟県青壯年・女性漁業者交流大会」が開催され、県内各地から漁業関係者や関係団体など九十五名が参加しました。

大会では、将来の地域漁業を担う後継者として、上越漁業協同組合一名、新潟漁業協同組合一名、佐渡漁業協同組合八名、内浦漁業協同組合一名の計十一名が表彰されました。

また、佐渡漁業協同組合からは二名の若手漁業者が登壇し、それぞれ漁業への思いや今後の目標について発表しました。

海洋高校生による発表では、水産資源化・資源育成コースの白井朱梨さんが「菜食主義養殖魚、実現なるか?」と題し、完全植物由来原料を用いた養殖魚用飼料の開発について紹介しました。

十月二十八日、新潟県自治会館において「第六十八回新潟県青壯年・女性漁業者交流大会」が開催され、県内各地から漁業関係者や関係団体など九十五名が参加しました。

大会では、将来の地域漁業を担う後継者として、上越漁業協同組合一名、新潟漁業協同組合一名、佐渡漁業協同組合八名、内浦漁業協同組合一名の計十一名が表彰されました。

また、佐渡漁業協同組合からは二名の若手漁業者が登壇し、それぞれ漁業への思いや今後の目標について発表しました。

海洋高校生による発表では、水産資源化・資源育成コースの白井朱梨さんが「菜食主義養殖魚、実現なるか?」と題し、完全植物由来原料を用いた養殖魚用飼料の開発について紹介しました。

意見交換を行いました。

本大会での交流や情報共有を契機として、今後、各地域における漁業・漁村振興の取組が一層推進されることが期待されます。

本活動は、「豊かな森を守り育てることは豊かな海を育てることに繋がる」を目的に活動に参加しております。

上越市では十月四日の土曜日に「桑取川魚の森づくり」が上越市くわどり市民の森において行われ、上越市漁協や桑取川漁協の組合員

「桑取川魚の森づくり」は、十月十八日の土曜日に谷根地区において活動が行われました。当日は総勢五十一名が参加し、以前に植林した場所の除草や追肥作業といった植樹地管理活動が行われました。

植林した苗木は、成木になるまで何十年もかかることから育植樹活動は未永く続ける必要があります。

さらに、「航いプロジェクト」に関する発表が県水産課をはじめ、能生・糸魚川地区、上越市地区、新潟(新川)地区、山北地区、栗島地区から行われ、その後、参加者が五つのグループに分かれて意見交換を行いました。

栗島地区から行われ、その後、参加者が五つのグループに分かれて意見交換を行いました。

県内各地で「魚の森づくり推進協議会」により植樹保全活動が行われました。

「魚の森づくり」活動報告

さんの他に、地元小中学校、森林組合などが参加し、コナラやブナ、オニグルミなどの下草刈りといった保全活動が実施されました。

柏崎市の「谷根川さけの森づくり」は、十月十八日の土曜日に谷根地区において活動が行われました。当日は総勢五十一名が参加し、以前に植林した場所の除草や追肥作業といった植樹地管理活動が行われました。



※上越市桑取川魚の森づくり

集合写真



※谷根川植樹作業の様子

一〇一五年 佐渡さかなまつり



※マグロ販売前の長蛇の列の様子



※素人セリで大勢の人で賑わう様子

令和七年十一月九日に佐渡水産物地方卸売市場で佐渡地区漁協連絡協議会の主催により第三十回『佐渡さかなまつり』が開催されました。

当日は、小雨まじりの天候のなか、島内外から約四千人という大勢の来場がありました。

島内の漁業者、婦人部、各種団

体などが多く出店し、佐渡産の鮮な魚介類や加工品の販売をはじめ、ステージでのミニライブ、素人が行われ大盛況で終了しました。

今後も島内的一大イベントの一つとして、佐渡の水産物のPR活動や消費拡大のため漁業者・漁協・各関係団体が協力し継続して

いくことで、島内外に佐渡プランドを発信することと共に安心・安全な鮮魚介類を消費者へ提供して

令和七年十月五日の日曜日に新潟市産業振興センターで新潟県協同組合間提携推進協議会（新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟漁業協同組合、新潟県酪農業協同組合連合会、JAバンク新潟県信連、JA全農にいがた、JA共済連新潟、JA新潟中央会）の九団体が主催で、「一人ひとりの力は小さくても、互いに支え合い、くらしを良くしていく」という相互扶助の理念のもと、協同組合の認知度向上を図り、食・農・健康・くらし・環境を守る活動を通じて地域社会に貢献するため、関係団体が連携して開催されました。

本会は新潟魚食普及の会からご協力をいただき、本県で漁獲され市場に出荷されることのない未利用魚である「エソ」のつみれを揚げて、つまようじに刺した「エソのさつま揚げ」と羽吉浜の冷凍加

第一十二回 協同組合まつり開催



※新潟漁協タツチプールの様子

工しているナガモにポン酢を混ぜカップに入れて「ナガモのお浸し」として試食提供いたしました。

新潟漁協は水槽にネコザメやヤカナなど触れ合えるタツチプールを設置しました。普段は触ることができないさかなに興奮している様子でした。

開催当日は比較的穏やかな天候で、早朝からキヤラクターショーの指定席を確保する列ができました。だが、残念ながら来場は約四千人と昨年を下回りました。しかし、

昨年からのリピーターが増えているなど良い点もありこれからも県内の協同組合と連携し取り組みを実施していきます。

△加茂湖産クロダイレシピ試食会・神経締め講習会を開催△

令和七年十一月七日、国際調理製菓専門学校において「加茂湖産クロダイレシピ試食会と神経締め講習会」を開催しました。例年実施しているお魚料理コンテストに代わり、今年は加茂湖産クロダイの試食や、事前に生徒の皆さんが考案した魚料理の発表、さらに神経締めの講習と実践を行う初の試みとなりました。

佐渡島内で真牡蠣養殖が行われている加茂湖では、近年クロダイが急増し、牡蠣を食害する被害が発生しています。本試食会は、クロダイを美味しく食べて活用することで食害対策につなげる取組の一環として実施しました。生徒の皆さん限られた時間の中で四十八人分のコース料理を完成させ、和・洋・中の多彩な魚料理が並び、クロダイ料理として、「黒鯛のアッシパルマンティエ風」や「黒鯛コンフィ十五穀米のきのこリゾット添え」が提供されました。イタリア軒総料理長による審

査の結果、低温調理を施した「黒鯛コンフィ十五穀米のきのこリゾット添え」が、令和八年一月中旬以降、イタリア軒マルコポーロにて期間限定メニューとして提供されることが決定しました。

神経締め講習では、キジハタやコシヨウダイを用いて実践を行い、処理方法による身質や鮮度の違いを体験しました。また、柏崎の伝統漁法「桶流し」で漁獲されたアラに神経締めを施し、一六日間熟成させた刺身も試食され、神経締めの効果に参加者から驚きの声が上がりました。

また、この日、新潟県漁業協同組合連合会と学校法人国際総合学園国際調理製菓専門学校との間で「包括連携に関する協定」を締結しました。今後、魚食普及や水産物の理解促進に向け、連携した取組を進めていきます。

△プライドフィッシュ情報について△

「地元漁師が選んだ本当においしい自慢の魚」をPRするプライドフィッシュ事業のPR情報です。

令和七年十月からYouTubeのWEB広告にプライドフィッシュの動画を流して一般の方にも広く認知していただきPRしております。

令和七年十月の表示回数は二十四万回で、視聴者は男性が十四万人の五十八%、女性が九万人の三十七%、その他一万人の五%であります。

令和八年二月末まで放送予定としております。

また、YouTube内の検索で【新潟 プライドフィッシュ】と検索いただきますと動画をご観覧いただけますので是非ご視聴願います。

これからもプライドフィッシュ事業にご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

～担い手対策について～

新潟県農林水産部水産課

団体・企画係

外の高校などに案内しています。また、「にいがたフィッシングショーや東京で開催された「漁業就業支援フェア」への出展など、漁業に関心を持つ層への情報発信にも取り組んでいます。

新潟県は、長い海岸線と多様で豊かな漁場を有し、四季折々の水産資源に恵まれています。一方で、漁業就業者の高齢化や後継者不足が進んでおり、地域の水産業を将来にわたって維持していくためには、新たな担い手の確保・育成が重要な課題となっています。

このため県では、県漁連や市町村と連携し、担い手確保に向けたさまざまな取組を進めています。その一つが、漁業就業を希望する方を対象に毎年七月に実施している「漁業出前講座」です。本講座では、新潟県の漁業の概要説明に加え、漁業士会による実体験を交えた講話や意見交換を行い、年によっては求人している経営体との面談会や若手漁業者との座談会も実施しています。希望に応じて個別開催も受け付けており、県内

業」の推進に加え、異なる漁業種類の技術習得を支援する「経営の多角化研修」などを通じて、将来にわたって安心して漁業に取り組める環境づくりを支援しています。

また、漁業の魅力発信にも力を入れており、今年度は「底曳網」や「カニかご漁業」を紹介する動画※を制作しました。若手漁業者も登場し、一日の操業の様子を紹介するほか、VR動画としても公開し、臨場感のある体験ができる内容となっています。

※新潟県の漁業に密着！漁業の一日を体験するVR動画
(YouTube)

さらに、実際の漁業現場を体験したい方には「漁業体験研修」を実施し、操業への同乗体験を通じて漁業経営体とのマッチングを行っています。マッチング成立後は、国の制度を活用した一～三年間の長期研修へと進み、未経験者でも現場実習を通じて漁業技術や経営の基礎を学ぶことができます。市町村によつては生活支援を行なうなど、安心して就業につながられる仕組みとして継続しています。

少子高齢化や職業選択の多様化を背景に、漁業に関心を持つ人材は減少傾向にあり、担い手確保にはこれまで以上の工夫が求められています。そこで県では、漁業を「選ばれる産業」としていくため、所得向上や経営の安定化に向けた取組を進めています。具体的には、「航いプロジェクト」や「海

今後も新潟県では、地域や県漁



＜底曳き網漁＞



＜カニかご漁＞

日本海の海水温の変化と水産資源の動向について

新潟県水産海洋研究所

漁業課長 大江 貢弘

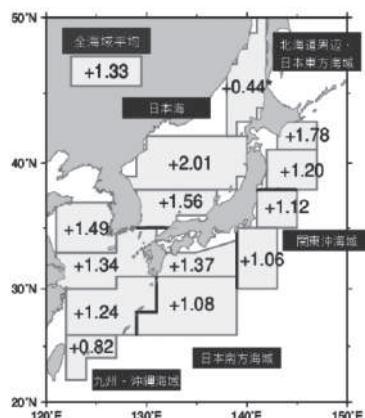


図1 日本近海の海域平均海面水温（年平均）の上昇率（°C/100年）

※出典：気象庁ホームページ「海洋の健康診断表」

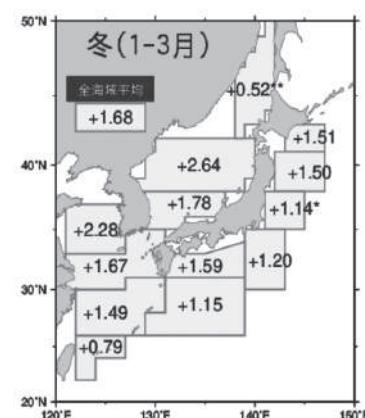


図2 日本近海の海域平均海面水温（冬：1~3月）の上昇率（°C/100年）

※出典：気象庁ホームページ「海洋の健康診断表」

最近は、温暖化や本県水産資源の好不漁の話題が毎日のようにニュースになっています。ここでは、海水温の変化と本県の主要魚種の資源動向について述べたいと思います。

【海水温の変化】

気象庁の二〇二五年三月五日の

発表によれば、日本近海の海面水温は百年あたり年平均十一・三℃上昇しており（図1）、世界全体の平均十〇・六二℃よりも大きな上昇率となっています。特に日本海中部は年平均十二・〇一℃と日本近海の中で最も上昇率が大きくなり、さらに冬（一～三月）に限れば十二・六四℃と顕著な上昇が

日本海中部は年平均十二・〇一℃と日本近海の中で最も上昇率が大きくなり、さらに冬（一～三月）に限れば十二・六四℃と顕著な上昇が弱まるため、下層の豊富な栄養分が表層へ運ばれにくくなり、餌となるプランクトンの種組成や量にも影響すると言われています。

また、新潟県沖は三月が

【水産資源の動向】

本県の主要魚種をピックアップし、漁獲量の推移をグラフ化しました。二〇〇〇年を基準として百分率で表しています。なお、縦軸は魚種によりスケールが異なるので、御注意ください（図3）。

○マダイ

南方系の魚種で、寒冷期の一九八〇年代は資源が低位でしたが、二〇〇〇年代以降の温暖期は高位で推移しており、毎年四百トン以上上の安定した漁獲が維持されています。

○ブリ

ここ数年、本県では寒ブリ漁が不振でしたが、これは本県にとつて不利な海況となってしまったた

認められています（図2）。

海水温の上昇は、栄養塩濃度などの海洋環境や海洋生態系に大きな変化をもたらします。鉛直混合を見ると、夏の高温期は海面付近と下層との温度差が大きく水深十～二十m程度しか交じり合いませんが、冬の低温期は海面付近が冷やされ温度差が小さくなり百mを超える混合層が形成されることがわかります。暖冬になると混合が

維持に直接関係します。北方系の種には分布が北方向や深い水深帯へ移動するものが確認されている一方、対馬暖流によつて運ばれてくる南方系の種には、以前は水温低下で死滅していたのに、ゴンズイやイセエビのように冬を越すことができるようになったものが見られるようになりました。

めで、我が国全体の資源は今のところ良好です。資源量増大と水温上昇の二つの要因によって分布域が北方へ拡大したと考えられます。

○サワラ

一九九〇年代以前、本県では漁獲がほとんどありませんでした

が、二〇〇〇年に突然四百四トンの漁獲があり、以降は八十トン

から七百九トンの間で増減を繰り返しています。水温上昇によつて分布域を北に広げたと考えられます。が、日本海全体の資源は二〇一六年をピークに増加傾向から減少傾向へ転じています。

○マダラ

本県の漁獲量は二〇〇〇年代に入つて増加に転じ、安定して推移してきました。しかし、二〇一七年生まれを最後に、本県を含む北部日本海全体で稚魚の生き残りが悪い状態が続いています。周期的な資源変動がある魚種のため、厳しい状況がしばらく続くかもしれません。

○スケトウダラ

本県の漁獲量はピーク時の千分

の一程度まで減少しています。日本海の資源は、北海道に分布の中心と産卵場があり、本県は資源の南端であると考えられます。北海道の資源水準は一九九〇年以降、長らく低迷していましたが、近年は回復基調にあるようです。資源の回復が本県にまで波及することが望れます。

○マガレイ

北方系のカレイで、本県の漁獲量はピーク時の百分の一程度まで減少しています。二〇〇三年に策

定された資源回復計画に基づく取組成果もあつて一時は回復の兆しが見られましたが、二〇〇七年以降は減少傾向が続いています。本県のカレイ類の漁獲量は、資源管理の取組にも関わらず、南方系のカレイを含めおしなべて減少傾向にあります。

【結び】

海水温の変化には、長期的な水温上昇のほかに、十年～数十年規模で温暖期と寒冷期が繰り返され

る周期変動があることが知られています。ややもすると全てが「温暖化」の一言で語られてしまいがちですが実際の水温変化はもつと複雑で、それぞれの魚種の分布、回遊の範囲・ルート・時期、餌環境、稚魚の成長・生き残りに深く関わっています。引き続き資源評価の精度を高め、適切な資源管理のあり方を考えていきたいと思います。

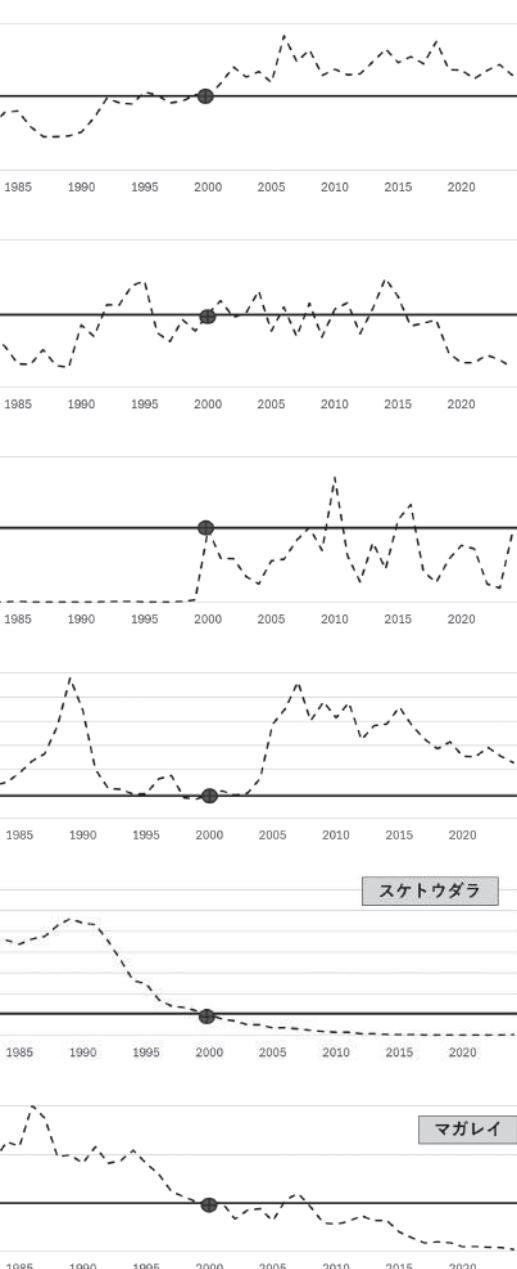


図3 主要魚種の漁獲量の推移

水揚情報

令和7年11月末現在

単位：(kg, %)

水揚市場区分	水揚合計	新潟	岩船	山北	寺泊	出雲崎	上越	佐渡
R7.6月～R7.11月累計	2,749,942	487,387	226,031	373,884	140,577	81,767	526,539	913,758
R6.6月～R6.11月累計	2,882,541	489,487	288,369	399,667	121,137	73,429	440,024	1,070,428
増減 (kg)	-132,599	-2,101	-62,338	-25,783	19,440	8,338	86,515	-156,670
前年対比 (%)	95%	100%	78%	94%	116%	111%	120%	85%

地区別魚種ランキング 6月～11月

前年対比：増加↑ 横ばい➡ 減少↓

新潟

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 べにずわい		235,672	↓
2 まあじ		79,618	↓
3 まだい		24,390	↑
4 まさば		22,895	↑
5 つぶ (黒ばい)		15,861	➡

寺泊

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 まあじ		47,325	↑
2 まだい		16,781	↑
3 するめいか		10,181	↑
4 つぶ貝		7,430	↑
5 さば		6,710	↓

岩船

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 ふぐ		40,911	↑
2 さば		25,356	↓
3 あじ		16,894	↑
4 たい		15,425	↑
5 さわら		11,720	↓

出雲崎

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 まだい		23,551	↓
2 するめいか		20,202	↑
3 さざえ		6,204	↓
4 かれい		5,622	↑
5 にぎす		4,776	↑

山北

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 岩がき		60,598	↑
2 ずわいがに		32,467	↑
3 たい		28,461	↑
4 あじ		21,855	↑
5 するめいか		20,703	↓

上越

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 まだい		99,885	↑
2 さば		72,301	↑
3 にぎす		64,995	↑
4 するめいか		49,266	↓
5 あじ		41,795	↓

佐渡

魚種ランキング	区分	漁獲量 (kg)	前年対比
1 さざえ		148,170	↓
2 さば		131,272	↑
3 あじ		127,452	↓
4 ぶり		74,833	↑
5 かつお		40,633	↓

漁船海難遺児育英資金の
募金のお願い

(財)漁船海難遺児育英資金の
新潟協議会

平素より本会育英事業に対し、心温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。皆様のご厚志により、多くの遺児が安心して学び続けることができておりますこと、深く感謝申し上げます。全国では約十一万人の方々が、私たちの食生活に欠かせない貴重な水産物を獲るため、日々厳しい海で働いています。しかし漁業は自然を相手とする危険な仕事であり、毎年のように尊い人命が失われています。一家の大黒柱を失つた遺族の方々にとって、心身の負担に加え、増え続ける教育費は大きな悩みとなっています。近年は大学・専門学校への進学率が高まり、下宿などの生活費を含めた経済的負担は一層重く、子どもたちの将来を支えるための支援は以前にも増して重要性を増しています。

こうした状況の中での、(公財)漁船海難遺児育英会では、遺児の皆さんが将来に希望を持ち、安心して学業に励めるよう育英資金による支援を行っております。今後も事業を安定的に継続し、さらに内容を充実させていくため、引き続き募金へのご協力をお願い申します。何かと物入りの折、毎年のお願いで誠に恐縮ではござりますが、皆様の温かいご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

(振込先)

東日本信用漁業協同組合連合会
新潟支店 普通預金

口座番号 2590693
口座名 (財)漁船海難遺児新潟協議会

会長 寺尾和弥



発泡スチロール容器の特徴

保冷・保温、保護効果、軽量、防水、成型が容易、省資源の6つの特徴が有ります。発泡スチロールはリサイクル特性に優れ、生産から再利用までのプロセスでエネルギー消費も少ない持続的発展が可能な循環型社会に適応した素材です。

主な取り扱い製品

- 水産物用製品
 - ・鮮魚用発泡スチロール容器
 - ・活け函・マグロ保冷輸送箱
- 加工食品用製品
 - ・加工食品用発泡スチロール容器
 - ・お土産用発泡スチロール容器
- 農産物用製品
 - ・青果用発泡スチロール容器
 - ・アスパラガス用発泡スチロール容器
 - ・水耕栽培定植パネル
 - ・イチゴ高設栽培ベッド
- その他製品
 - ・各種包装資材・漁業フロート



新潟営業所

新潟営業所 〒950-0078 新潟市中央区万代島1番8号(北冷モール 株式会社内)
TEL (025)278-7376 FAX (025) 278-7393
本社 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1丁目17番19号 キック丸の内ビル3階
TEL (052)221-5411(代) FAX (052)221-6933
(営業所) 道央・道南・道北・道東・青森・宮城第一・宮城第二・関東・銚子
東京・神奈川・静岡・四国・名古屋・大阪・北陸・三重・広島
福岡・長崎・鹿児島

お知らせ

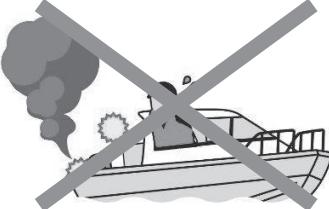
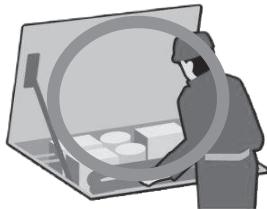


新潟海上保安部

①今年の漁船海難の発生状況

新潟県内では漁船海難が2件発生しており、また漁船に関連する人身事故は4件発生しています。

引き続き「救命胴衣の着用」「常時見張りの徹底」「気象確認・発航前点検」をお願いします。



発航前点検により予期せぬ事故を防止



万が一に備え連絡体制の確保

②積雪による係留船の浸水、転覆対策

新潟地方気象台によると新潟県の降雪量は「平年並み」との予報が出されています。積雪による浸水・転覆事故防止のため、早めの陸揚げ、係留索の増強等を実施しましょう。

また、除雪作業等を実施する際は、救命胴衣を正しく着用し、複数名で安全な作業を心がけましょう。

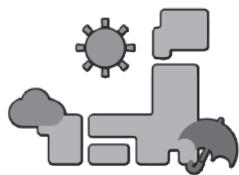


③命を守るために

これから冬に入り、気象・海象が悪くなってきます。天候が急変することがありますので、最新の気象情報を入手し時化が予想される場合は早めの帰港を心がけましょう。

【問合せ先】

新潟海上保安部 交通課
TEL 025-244-1008



税関から漁業関係者の皆様へのお願い

税関では、国民の皆さん
の生活を脅かす不正薬物や
銃器などの密輸を撲滅する
ために日々取締りを行つて
おります。

令和七年上半期の税関で
の不正薬物の摘発件数は五
百三十一件、押収量は約二
千七十三キロとなり、上半
期で二トンを超えるのは初
めてで、極めて深刻な状況
となっています。

そのうち、令和七年七月
には静岡県清水港に入港し
た外国貿易船の海水取入口
から、コカイン約二十キロ
を発見・押収しました。

日本国内で摘発される不
正薬物や拳銃のほとんどが
海外からの密輸品です。

税関では更なる水際での
取締強化を進めているとこ
ろ、新潟県の長い海岸線に
対する取締りには、漁業関
係者の皆様の協力が必要不
可欠です。

身の回りで何か不審なこ
とを発見したときや不審な
漂着物などを発見したとき
は、新潟税関支署（〇二五
一二四四一九三一四）又は
密輸ダイヤルまでご一報下
さい。

【ケタミンの漂着に注意!!】

今年9月から韓国済州島や対馬などで麻薬のケタミンが入った中国茶の袋が漂着する事案が発生しています。11月16日までに18件、合計で100万人分相当。麻薬入りの中国茶は、東南アジアから流入したものとみられています。（「Yahoo!ニュース」より）今後、日本海側の海岸に漂着する可能性も考えられるので、ご注意ください。



令和7年7月、静岡県清水港において外国貿易船から押収されたコカイン約20キロ、約1キロずつビニールテープにくるまれた状態で、ボストンバッグに収納されていました。

けん銃・麻薬の 密輸防止にご協力を!

港でこんなことに出会ったら税関にお知らせ下さい。

密輸ダイヤル

0120-461-961

税関ホームページ <http://www.customs.go.jp/>



佐渡ヶ島の海が育てた究極の味わい

海底20mで半年間熟成

佐渡ヶ島海底熟成酒

佐渡ヶ島海底熟成酒は、ほのかに海の香りが漂い、まろやかで角のとれた味わいです。熟成させることで匂いや色が変化し、深い味わいを楽しむ事ができます。



日本酒 白ワイン 赤ワイン スパークリング



経年劣化や紫外線の影響で破れてしまっても捨てる前に、ご相談ください。

■ウェットスーツ修理します。

破れ、ほつれ、裾上げなど、お客様の要望通りに仕上げます。



佐渡潜水ではドライTシャツや裏起毛パーカーなど夏は涼しく冬は暖かい商品なども取り扱っています。詳しくは下記の公式ショップをご覧ください。

佐渡潜水公式オンラインショップ
<https://sadosensui.buyshop.jp>



佐渡潜水株式会社

新潟県佐渡市加茂歌代331

TEL:0259-58-7228

URL: <https://sadosensui.co.jp>

共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、安心のチカラでそっと支えるサイ。共栄火災のサイ吉です。



夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

隣にいる誰かと、家で待つ誰かと、未来で出会う誰かと。

人はみんな、あらゆるつながりの中で暮らしています。

そのつながりが、もっと身近なものになれば、

人生はずっと豊かなものになる。

共栄火災は、確かな安心のチカラで、

そんなあなたの毎日を応援します。

それが、地域を支え、暮らしに役立つ保険会社としての、私たちの使命だから。

つながり強化宣言！ **共栄火災**

まるまるそろった安心と、わかりやすさを。
めざしたのは、つつみこむような自動車保険です。

総合自動車保険 KAP くるまる

JF共水連(全国共済水産業協同組合連合会)との連携強化：損害保険分野において、優れた補償の提供とサービスの向上を図るために、JF共水連との連携強化を継続してまいります。

共栄火災海上保険株式会社 【中央支店新潟支社】 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島5-1 万代島ビルディング18F www.kyoeikasai.co.jp

CMP CHUGOKU

最高級加水分解型船底塗料



「あっぱれ」の防汚性能がさらにアップしました。

※ 製品改良に伴い光沢が若干増しており、仕上り感が従来品と若干異なります。

あっぱれの特長

表層の高濃度の防汚剤イオン層により、優れた防汚効力を発揮します

高活性加水分解ポリマーによって、表面更新性が優秀です

塗膜表面が平滑に研磨され、水中の摩擦抵抗が減少します

色がカラフルです

2kg

4kg

レッドH

ブルーH

黒H

中国塗料株式会社

〒105-5516 東京都港区虎ノ門二丁目6番1号 虎ノ門ヒルズステーションタワー16F
TEL: 03-6457-9307 Website: www.cmp.co.jp

ご用命は最寄りの
漁業協同組合 購買課まで

製品ラインナップ

- ・130F51
- ・155G51
- ・210H52



NO! 不法投棄

不法投棄は犯罪です。
バッテリーのリサイクルに
ご協力ください。



船舶対応ハイブリッドバッテリー



4大特徴

- 容量UPで長寿命化を実現
- 防爆栓の採用により、安全性に配慮
- 船舶専用付属端子付き
- 船舶対応取扱い説明書を添付

好評販売中!!

JF 全国漁業協同組合連合会



JFグループは環境の保全を推進しています!!



製造元 FB 古河電池株式会社

販売元 JF 全国漁業協同組合連合会

〒240-0006 神奈川県横浜市保土ヶ谷区星川2-4-1

〒101-8503 東京都千代田区内神田1-1-12

FB FURUKAWA BATTERY

STOP!
違法クロマグロ!



令和8年4月からは、
太平洋クロマグロ（大型魚）について、
TAC報告における本数等の報告と記録の保存、
取引時における情報伝達と記録の保存が
義務付けられます。



違法に漁獲されたクロマグロの
流通防止にご協力をお願いします。

詳しくは水産庁Webサイト

水産庁 水産流通適正化法



水産庁